

平成27年度ユネスコスクール年次報告



今年度の本校研究主題は「『思考力・判断力・表現力等を育てる指導の工夫』～ESDの実践を通して～」です。主に総合的な学習を軸に他教科を交えながら取組を進めています。本校では、研究を進めるに当たって「3つの視点」に留意しながら取組を進めています。

視点1
めあてに対応したまとめ・振り返り

- 子どもの意見を分類し、まとめに向けて焦点化していく。
- 授業の終末に、児童生徒による振り返りの記述または発言を行う。
- 児童生徒の振り返りの評価を行う。

めあてに対応したまとめ・振り返り
3年生 算数科「三角形」

1時間の授業を「めあて」から「学習の流れ」、「まとめ」まで黒板一面で板書します。

本時の学習の流れを「見える化」して提示します。

「めあて」に対して児童自身の言葉で「まとめ」をします。書いたり、話したりして、自分のまとめを仲間と共有します。

正三角形
「めあて」に対して児童自身の言葉で「まとめ」をします。書いたり、話したりして、自分のまとめを仲間と共有します。

辺の長さが全て同じものを正三角形といふ。Aの長さからわかるように、この正三角形は、

・視点1「めあてに対応したまとめ・振り返り」です。昨年度から全クラスで取り組んでいます。1時間の授業を「めあて」から「学習の流れ」、「まとめ」まで黒板一面で板書します。「めあて」に対して児童自身の言葉で「まとめ」をします。書いたり、話したりして、自分のまとめを仲間と共有します。

視点2
関わり合う(学び合う)場の設定

- ソーシャルスキルの手法を取り入れる。
- 「人間関係形成能力の育成」の校内研修から学んだことを授業の中に取り入れる。

関わり合う(学び合う)場の設定
5年生 総合的な学習の時間「守ろう、宮島の環境(身の回りの環境)」

【学習の主な流れ】
《出会う》
・前年度の学習「ごみや水の学習」を振り返る・海辺探察の方法を学ぶ・海辺探察
《思いつける》
・海辺探察後の気づきや考えの交流・前年度7年生の調査結果と比較し、課題再発見
《考える》
・追求する方法を考え、情報を活用し、主体的に探究
《発表する》
・調査結果や分かったことを種でまとめ表現・発信

学年内での学び合い
他学年との学び合い

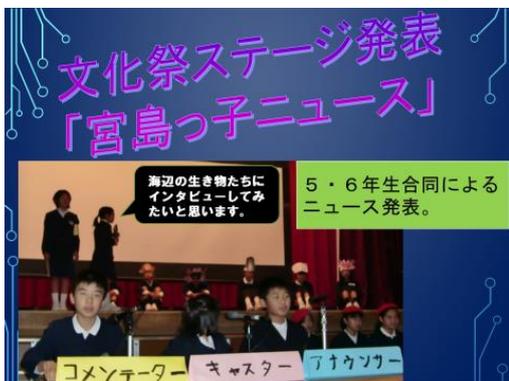
新聞・階段表示・文化発表会で学びの表現・発信

・視点2「関わり合う(学び合う)場の設定」です。教師からの一方通行的な授業、受け身的な授業でなく、能動的な授業を構築していかなくてはならないと考えています。また、廿日市市で取り組んでいる「つながり支援プロジェクト」の柱である「自己有用感」を高めるための学習支援に資するために、本校では、サテライト研修で外部講師を招き、「人間関係形成能力の育成」について学んできました。

学習活動では、授業の中にグループ討議や体験活動等を仕組んでいきました。総合的な学習の時間で5年生では環境について学習するに当たり、宮島の海岸に生息する生き物を調べ、昨年度の7年生(現8年生)が生き物調べをした結果と比較し、見つけることができなかった生き物が多数いた原因を確かめるために、再度生き物調べを実施しました。



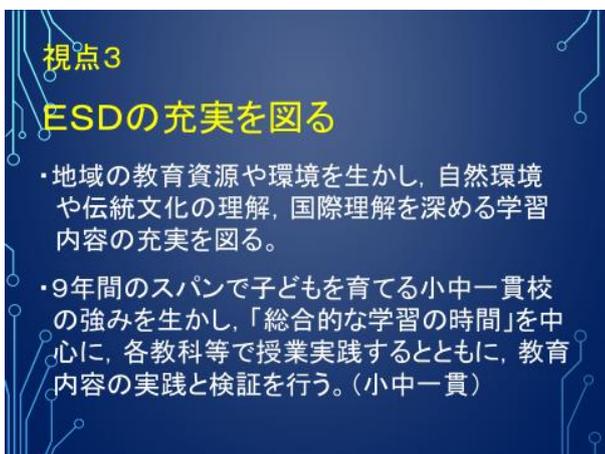
5年生は、1学期の総合的な学習の時間で、小なきり浦海岸で実施した「海辺の生き物調べ」の結果や、そこから海の汚れについて考えたことなどを壁新聞にまとめました。壁新聞は、クラスの3つの班がそれぞれ1枚ずつ作りました。その3点を「第34回 海とさかな自由研究・作品コンクール 壁新聞部門」に出品しました。その結果、その3点の壁新聞全てが「優秀賞」を受賞しました。クラスで取り組んだことが、「入賞」という形で評価され、子どもたちにとって大きな自信となりました。



文化祭のステージ発表で5・6年生合同によるニュース発表の中で、5年生は、身の周りの環境と生き物について、学習したことを発信しました。2月19日には、学習のまとめとして、宮島水族館よりゲストティーチャーを招き、厳島神社大鳥居周辺の干潟におけるアオサによる環境問題の実態調査と、清掃活動を行いました。子どもたちは、「少しでも干潟をきれいにしよう」と、一生懸命ゴミを集めました。1年間を通して、「宮島を大切にしたい」という思いが強まりました。



・本校では自己有用感を高める取組のひとつとして、全校行事や複数学年での合同行事の後などにリーダーシップを発揮してくれた上級生に対して、付箋に感謝のメッセージを書いて渡したり、校内に掲示する「ハッピーツリー」の取組を続けています。



視点3「ESDの充実を図る」です。
 「宮島」の教育資源や環境を生かし、自然環境や伝統文化の理解、国際理解を深める学習内容の充実を図っています。9年間のスパンで子どもを育てる小中一貫校の強みを生かし、「総合的な学習の時間」を中心に、各教科等で授業実践するとともに、教育内容の実践と検証を行います。

ユネスコスクール実践の場としてのESDの充実		リーフレット裏面右側
ESDを通して児童生徒に身に付けさせたい力 (応用技能科目) <ul style="list-style-type: none"> ① 道徳の多岐にわたる価値の両立を促すことなど。 ② 多岐にわたる価値の両立を促すことなど。 ③ 道徳の多岐にわたる価値の両立を促すことなど。 ④ 道徳の多岐にわたる価値の両立を促すことなど。 	ESDの視点に立った学習指導で育てようとする資質や能力及び態度 (学習目標) <ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な思考力・判断力・表現力(学習方法) ○ 課題発見・解決力(自分自身) ○ 協同的態度(他者や社会) ○ 主体的行動力(他者や社会) ○ 未来設計能力(学習方法) 	

ESDの視点に立った学習指導で育てようとする資質や能力及び態度 (宮島学園)	
○多面的な思考力・判断力・表現力(学習方法)	
○課題発見・解決力(自分自身)	
○協同的態度(他者や社会)	○コミュニケーション能力(他者や社会)
○主体的行動力(他者や社会)	
○未来設計能力(学習方法)	

ESDの視点に立った学習指導で育てようとする資質・能力・態度です。以下、各学年で取り組んでいることを紹介します。

ESDの主な取組 in 宮島学園				
学年	生活科・総合的な学習の時間のテーマ	世界遺産・地域遺産教育	環境教育	国際理解教育
9	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 宮島がけ		
8	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 (宮島遺産) 宮島がけ		
7	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を知る～	宮島学園		
6	伝えよう、宮島	宮島二味壺 宮島の歴史 宮島がけ		
5	守ろう、宮島の環境			
4	深めよう宮島	宮島さん 杓子伝書 伝統工芸		
3	発見！廿日市	たのもふね作り たのもさん参加 氏神祭体験		
2	まちたんけん	まちしらべ		外国語活動
1	がっこうがいすき	がっこうしらべ		

***各学年の取組(小学校)**

系統的な指導

1・2年生

まちたんけんで地域の学習

宮島小中学校では、各学年あるいは複数学年合同により、地域色を生かした系統的な指導を行っています。1・2年生は、「まちたんけん」で地域を知る学習をしています。

ESDの主な取組 in 宮島学園				
学年	生活科・総合的な学習の時間のテーマ	世界遺産・地域遺産教育	環境教育	国際理解教育
9	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 宮島がけ		外国人観光客との心づな
8	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 (宮島遺産) 宮島がけ		
7	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を知る～	宮島学園		
6	伝えよう、宮島	宮島二味壺 宮島の歴史 宮島がけ		
5	守ろう、宮島の環境			
4	深めよう宮島	宮島さん 杓子伝書 伝統工芸		
3	発見！廿日市	たのもふね作り たのもさん参加 氏神祭体験		
2	まちたんけん	まちしらべ		外国語活動
1	がっこうがいすき	がっこうしらべ		

系統的な指導

3年生

たのもふね作り

地域の方の指導のもと

対岸の豊作を折って船を流します

3年生は、1・2年生の生活科の授業を発展させて、1・2・4年生と合同で、地域の方の指導のもと、「たのもふね作り」を行っています。

ESDの主な取組 in 宮島学園				
学年	生活科・総合的な学習の時間のテーマ	世界遺産・地域遺産教育	環境教育	国際理解教育
9	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 宮島がけ		外国人観光客との心づな
8	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を愛伝しよう～	宮島学園 (宮島遺産) 宮島がけ		
7	宮島の伝統文化および自己と地域の歴史 ～宮島を知る～	宮島学園		
6	伝えよう、宮島	宮島二味壺 宮島の歴史 宮島がけ		
5	守ろう、宮島の環境			
4	深めよう宮島	宮島さん 杓子伝書 伝統工芸		
3	発見！廿日市	たのもふね作り たのもさん参加 氏神祭体験		
2	まちたんけん	まちしらべ		外国語活動
1	がっこうがいすき	がっこうしらべ		

系統的な指導

4年生

地元の伝統工芸士に学ぶ

杓子供養への参加

匠人の作品

4年生は、宮島彫りなどについて地元の伝統工芸士に学び、自分たちも作品を作る活動をしています。また、宮島の恩人、誓真さんが考案された、杓子への感謝をこめて「杓子供養」へも参加しています。

ESDの主な取組		環境教育	国際理解教育
学年	生活科・総合的な学習の時間のテーマ		
9	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～		外国人観光客との交流
8	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～		
7	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～	種生復元活動(島津忠尚)地域の歴史	
6	伝えよう、宮島	宮島	
5	守ろう、宮島の環境	身の回りの環境問題の学習	
4	探めよう宮島		
3	発見！廿日市		
2	まちたんけん		
1	がっこうがいすき		

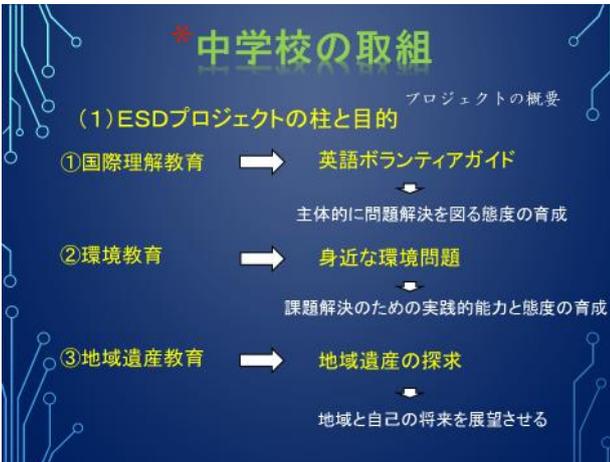


5年生では、身の回りの環境について調べたり自分の考えをまとめたりしています。また、7年生と合同で、8月に野外活動を実施し、地域理解を深めることができました。

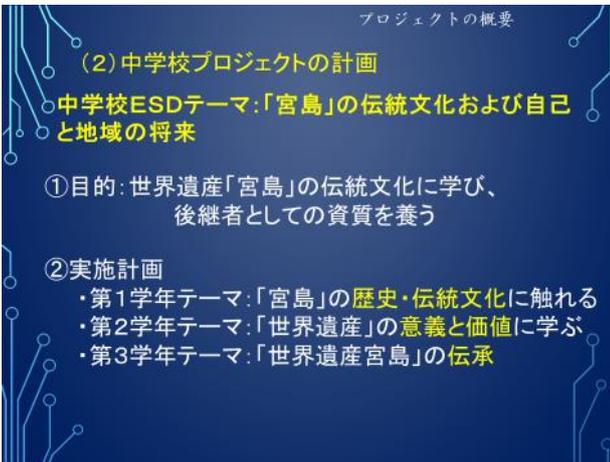
ESDの主な取組 in 宮		系統的な指導	来校者へのガイド活動
学年	生活科・総合的な学習の時間のテーマ		
9	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～	宮島の発見	
8	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～	運動会・芸能祭等で披露	伝統保存会の協力で三味線の学習
7	宮島の伝統文化および自己と地域の将来 ～宮島を愛伝しよう～		
6	伝えよう、宮島		
5	守ろう、宮島の環境		
4	探めよう宮島		
3	発見！廿日市		
2	まちたんけん		
1	がっこうがいすき		



6年生は来校者へのガイド活動をしています。また、芸能保存会の協力で三味線の学習をしています。



中学校では、国際理解教育、環境教育、地域遺産教育の3つを柱として、取り組んでいます。



中学校ESDテーマ「宮島の伝統文化および自己と地域の将来について」の学習を続けています。



「ボランティアガイド」では、来島した外国人に英語でガイドをしています。また、今年度は、「双方向のガイド」を掲げ、相手の国のことや、自分たちの取組についての気づき感想なども聞きながら、人と人との関わりを広げていければと考えています。



地域行事への参加では、大晦日の鎮火祭への参加、たのもさんへの参加、管絃祭の提灯行列への参加をしています。



宮島の伝統・文化である「宮島太鼓」です。毎年文化祭で披露し、年度末に引き継ぎを行います。

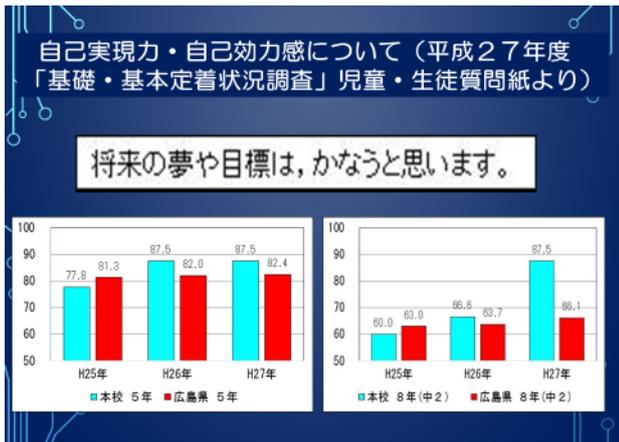


2月14日の「宮島力キ祭」の野外ステージでも、大勢の来島者の前で、地域の指導者や保護者と一緒に、堂々と披露する宮島小中学校児童生徒の姿がありました。

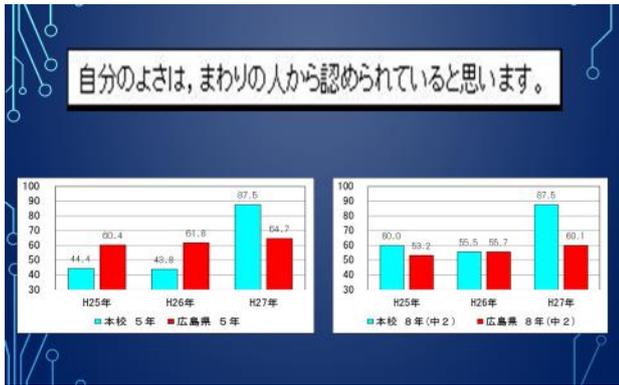


8年生の英語の授業の様子です。共同的な態度やコミュニケーション能力を高めるためのペアワークの活動や入国審査場面を生徒同士で演じさせるなど、主体的行動力を高める活動を取り入れています。

「『関わり合い・学び合い』が、めあてを達成するため、または、思考力・判断力・表現力の向上に有効であったか。」については、自作問題や学力調査等で検証していきます。



今年度の基礎・基本定着状況調査」で、「将来の夢や目標は、かなうと思います。」の質問について、3年間の経緯を見てみますと、5年生・8年生共に、この2年間は広島県の平均を上回っています。特に、8年生は、昨年度より20%以上高い数値を示しています。



「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の質問では、今年度、5年生・8年生共に顕著な数値の伸びが見られました。自己有用感を高める取組や関わり合いをもたせる指導の効果と考えられます。

教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力
（平成27年度「基礎・基本定着状況調査」タイプIIの結果より）

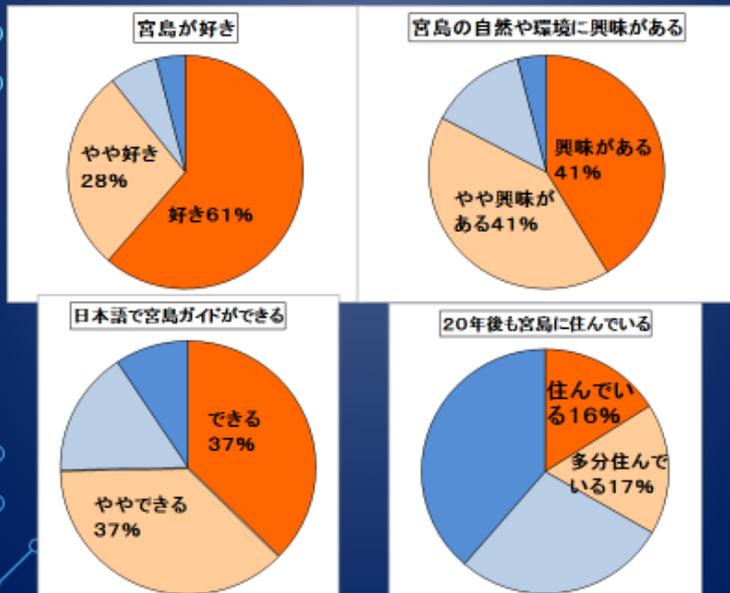
年	国語	数学(算数)	理科	英語	
8年	本校	62.5	70.0	48.4	83.3
	広島県	64.8	57.2	49.1	60.6
5年	本校	68.8	65.0	56.3	
	広島県	58.3	49.4	55.0	

- タイプIでは、全教科で県平均を上回っている。タイプIIでは、ほぼ県平均を上回っているが、小学校・中学校両方の全教科において以下のような共通した課題が見られた。
- 記述や資料、グラフを読み取り活用する力
- 実験結果を分析、解釈して結論を見いだしたり、グラフから読み取ったりしたことを論理的に説明する力

ESDでつけたい資質・能力
◎多面的な思考力・判断力・表現力の育成!

今年度の「基礎・基本定着状況調査」では、タイプIの問題において、全教科で県平均を上回っていました。タイプIIの問題では、ほぼ県平均を上回っていましたが、小学校・中学校両方の全教科において記述や資料、グラフを読み取り活用する力や、実験結果を分析、解釈して結論を見いだしたり、グラフから読み取ったりしたことを論理的に説明する力が十分ではない、という課題が見られました。

ユネスコスクール実践の場として(平成27年度7月校内アンケートより:対象3~9年)



児童・生徒アンケート結果で、児童・生徒は概ね「宮島が好きである」と答えています。また宮島の自然や環境に対しても多くの児童・生徒が興味を持っていることが分かりました。

「日本語で宮島ガイドができる」という割合の高さから、宮島の事をよく知っているという思いと宮島を誇りに思う気持ちが育っていると言えるのではないかと思います。

しかし、「20年後も宮島に住んでいる」の質問に対しては、児童・生徒の多くが、「将来は島外で生活する」と考えているようです。



11月に、京都の大原学院で行われました「第1回小中一貫教育小規模校サミット IN 大原」に本校職員5名が参加しました。そこで、現在、宮島を離れ大学院で学んでおられる本校卒業生の方が、このように話しておられました。「宮島を離れて、初めて、宮島の魅力、特殊性、非日常性に気付かされました。将来は宮島に帰り、建築家として宮島の為に力を発揮していきたい。」と。また、同じく参加して下さった保護者の方も、宮島や宮島小中学校のことをとても大切に思われている気持ちが伝わってきました。大変嬉しく思いました。



これからも世界遺産という特別な地で学び育つ子どもたちが、自信を持って「ふるさと宮島」を語るができるよう教育活動を進めていきたいと思っています。「宮島で学ぶ」ということが、子どもにとって、「自己の未来を切り拓いていくためのたしかなあゆみ」となるよう、また、教師にとっても、子どもたちの学ぶ姿に「最高のやりがい」を感じることができるよう、これからも精一杯取り組んでいきたいと思っています。

